

令和5年度 学校評価

【スクールミッション】 学校経営方針

「自律 協同 創造」の理念のもと、生命を尊重する心や他者を思いやる心、心身を鍛える態度、これからの時代を生き抜く力を備え、自らの未来に向かって果敢に挑戦し、自立して社会に貢献できる人材を育成する。

【スクールポリシー】 3つの方針

育成をめざす資質・能力に関する方針(グラデュエーション・ポリシー)

- ① 未来を切り拓く力を持ち、生涯を通して学び続ける生徒を育成する。
- ② 基礎的・基本的な知識を身につけ、社会の変化に対応できる生徒を育成する。
- ③ 生命の尊重、他者を思いやる心を持つ、人間性豊かな生徒を育てる。

教育課程の編成及び実施に関する方針(カリキュラム・ポリシー)

- ① 生徒の興味・関心や進路希望に応じた教科・科目等を配置する。
- ② 「産業社会と人間」及び「総合的な探究の時間」等に積極的に取り組ませる。
- ③ 将来必要となるコミュニケーション能力・課題解決能力や自己管理能力の育成を図る。
- ④ 生徒が主体的に学習に取り組むため、外部講師の活用や近隣の企業・大学と連携を図る。

入学者の受入れに関する方針(アドミッション・ポリシー)

- ① 自らの個性の伸長を図り、将来の進路実現に意欲のある生徒を募集する。
- ② 自らの興味・関心進路に応じて主体的に学習する生徒を募集する。
- ③ ルール・マナーを守り、自立的な生活態度を備えた生徒を募集する。

4 学校評価の実施方法についての学校関係者評価

令和4年度の課題として、保護者向けアンケートの評価の段階が上げられた。具体的には評価「5」～評価「1」までの段階で「5」～「2」までは「良い」「劣る」の程度の評価であるが、「1」が「わからない」という項目であった。学校の情報の伝達の問題が、各項目の程度の評価を押し下げる結果になっていた。令和5年度に関しては、保護者向けアンケートの評価の平均を「5」～「2」まででとり、「1」は別立てとした。経年比較のために令和4年度の平均に関しても同様に算出し、今年度の推移を見た。関係者諸氏は、評価方法の変更に関して好評価をいただいた。

【生徒・保護者・教員】  
A: 5.0～4.2  
B: 4.1～3.3

【総合評価】  
A: 5.0～4.0  
B: 3.9～3.5  
C: 3.4～3.0

5 総合的な学校関係者評価

- ・各部・各年次ともさまざまな分野でチャレンジしている。
- ・修学旅行の長治の教育効果が高い。
- ・生徒指導部からの報告の中で、「生徒に任せる」とあった。時間や先生方の精神的な余裕が確かに必要である。
- ・アンケートの教員指導面でも、先生方が自身の指導を「まだまだ、これから」と思っておられることがわかった。
- ・公立高校と私立高校を比べると、私学の方が学校説明会の場面で自校のアピールや内容の説明が上手い。心に突き刺さる言葉を保護者や中3生に投げかけることが必要。
- ・公立高校の学校説明会は、担当者が必要事項を淡々と話しているイメージがあった。
- ・学校改善のポイントとして、「女子が目にする制服」「元ホテルシェフの食堂メニュー」「セブンティーンアイスの自販機」「生徒が立案した食堂のメニュー」等。「コレ！」という目玉言葉が必要。
- ・倍率が上がれば、学力レベルも上がる。入りたての学校になるために、説明会で在校生と中3生との交流や在校生に質問する場面を作ってはどうか。小グループに分かれての、フレンドリーな雰囲気での交流は効果的ではないか。
- ・〈個人的にはあまり好きではないが〉数学でアピールすることも大切なのではないかと。例えば「大学進学率100%」等の文言はそれなりにインパクトがある。他校の差別化を数字で表すことも大切。
- ・課題研究は素晴らしい活動である。ただ、一方でそういったことが苦手な生徒もいる。課題研究・発表を必須とするのではなく、代替の学習案を用意するのでも発表等が苦手な生徒が本校を選びやすくなるのではないかと。
- ・スマホ・タブレット等時代の趨勢に沿った対応を今後も続けて欲しい。
- ・勤めている塾の生徒にも、将来の自分像が描けず無力感を抱えている者がいる。成功例(例えば、「偏差値40だった私が関西学院大学に入学できた」等)を示して、長期目標・中期目標を設定させることも必要ではないか。
- ・総合学科で学ぶことは「インクルーシブ」「ダイバーシティ」等時代の最先端であることもアピールしてはどうか。
- ・自分の子どもが本校の高校3年に在籍していた。海外で学びたい、経済学・商学をやりたい、という「～たい」が背中を押したように思う。
- ・大学合格した先輩の体験談が参考になった。
- ・推薦入学で合格した生徒がたくさんいる中で一般入試はなかなかしんどかったようだ。楽しそうに昼食を摂っている教室の空間が耐えられなくて、何人か図書室で食事を摂らずに学習していた。
- ・自分の学力にあった参考書・問題集の選定が難しかった。通う塾で他校(西宮東や市立西宮)の卒業生から参考書や問題集を紹介してもらって、それを活用していた。合格した卒業生にアンケートを実施して、(大別別の役に立つ)テキストを紹介してみてもどうか。
- ・模試の受験に関しても、本当に力になる模試なのかどうかの選定は必要。
- ・コツコツ積み重ねる努力や「やればできる」という思いを支えて、肯定的に評価して、その努力や思いを強化していく方向にもっていかなくてはどうか。

3 学校自己評価結果 (A 優れている B 良い C おおむね良好 D 要改善)

観点	No.	質問項目	生徒評価 1年次 212名		生徒評価 2年次 214名		生徒評価 3年次 186名		生徒 評価 平均	段階 平均	保護者評 価364名	教員評価 33名	総合評価	担当	評価	改善策など
			4.0 B	3.9 B	3.8 B	3.9 B	3.8 B	3.9 B								
学校生活	1	本校の校訓を知っている。	4.0 B	3.9 B	3.8 B	3.9 B	3.9 B	3.8 B	3.9 B	B	3.8 B	B	3.9 B	総務	校訓や愛校心につながる校歌斉唱を今年度から式典で再開した。	次年度は校歌斉唱を3番まで歌うこととしたい。
	2	学校に来るのが楽しい。	3.9 B	3.9 B	3.9 B	3.9 B	3.9 B	3.9 B	4.1 B	B	4.1 B	B	4.0 A	各年次	【3年次】 全体的学校に来ることが楽しい生徒が多い。反対に大学受験で頑張っている時期があると思う。また、体調面や心の問題で楽しめない生徒が何人かは存在している。 【2年次】 学校は楽しいから行く、楽しくないから行かないというものではないが、学校で過ごす時間が不愉快であるよりも愉快である方が様々な知識・教養を身につけることに集中できるためこの評価に関しては概ね満足している。しかし、すべての生徒が楽しく過ごしているわけではないため、それに対する改善策も必要であると考える。 【1年次】多くの生徒については学校への登校が精神的に苦痛ではないことがうかがえる。このことは、生徒のもつ寛容さが相互に親しみ合うことを可能にしていることであり、学年次の経営上大変喜ばしいことである。しかし少数ではあるものの、不安を抱えている生徒も存在している。	【3年次】 担任の先生が時期を見て面談を実施して話をしているが、心の問題と体の問題解決は難しい。また学校は楽しいだけの所ではない。学校全体の取り組みが必要。 【2年次】 我々の業務は警察官や税務署員と同じく、どれだけ人から嫌がられても遂行しなければならない任務があるため、すべての生徒が学校で過ごす時間を快適であると感じることを目標にすることは難しい。しかし、在学中すべての時間で快適さを感じられなくとも、卒業時点で振り返ったときに快適であったと感じられるよう、現況に惑わされことなく未来を見て指導を継続していきたい。 【1年次】学校行事、年次行事をとおして集団の中の心地よい位置づけを学びながら、人間関係にわだかまりを抱える少数の生徒には具体的な関わりや観察から改善策を模索して対処するとともに、生徒の成長に基づく意識や認知の変化を促したい。
	3	学校での出来事を家庭でよく話をする。	3.9 B	3.7 B	3.8 B	3.8 B	3.8 B	3.8 B	4.0 B	B	4.0 B	B	3.9 B	各年次	【3年次】下級生では部活動や塾で忙しく、3年次の生徒は家庭で話す時間よりも学習時間の確保をしているのではないだろうか。 【2年次】学校での出来事をよく話ができる家庭が多いことは好ましいことである。 【1年次】生徒と保護者の情報共有は本校の学校教育を理解し下支えしていただくためにならなければならないものである。感謝しなければならぬ。	【3年次】家庭でできるだけ時間を持ってもらうこと。また、年次通信や学校からの連絡などで会話のきっかけになればよい。 【2年次】家庭での話題となるよう、年次からも直接保護者に対し、様々な手段で情報発信をしていきたい。 【1年次】これからもホームページ・ブログ等を活用してリアルでスピード感のある情報の発信を行いながら、学校と家庭との連携を密にしていきたい。
	4	学校はわかりやすい授業を行っており、基礎学力が定着してきた。	3.5 B	3.6 B	3.4 B	3.5 B	3.5 B	3.5 B	3.6 B	B	3.6 B	C	3.5 C	教務	タブレット等の利用など、授業方法の改善を試みている結果と思われる。	教師間で授業方法に関する情報交換を活発にする。
	5	家庭学習の時間が昨年より増えている。(H29家庭学習を2時間以上確保できている)	3.3 B	3.6 B	3.7 B	3.5 B	3.5 B	3.5 B	3.4 B	B	3.4 B	B	3.5 B	教務 各年次	【教務部】学校での授業改善の成果が、学習意欲を高め家庭学習時間を増加させるまで至っていないと思われる。 【3年次】多くの生徒が2学期に入り専門学校の受験が終わった。そのため学習時間が低下している。しかし大学受験の生徒の学習時間は伸びている。 【2年次】年次進行とともに学習意欲が高まり、家庭学習の時間が増加していることは大変好ましいことと考える。 【1年次】生徒に寄り添う細やかな学習指導とともに年次が独自に取り組んだ朝活のワークや試験前の勉強会など地道な活動が成果になってあらわれていることは喜ばしい。その反面年度初期の意欲がいささか減退している状況にあり課題も多い。中学時代から学習の主眼を学習塾において取り組んできた生徒が多く、家庭での学習は疎かにしている。	【教務部】主体的に学習に取り組む態度を養うような授業に改善していく。 【3年次】生徒は各自必要に応じて学習時間の確保に努めている。 【2年次】この数値に満足することなく、各教科と連携をとりながら、生徒の学習意欲を高めるために、年次としてできる様々な方策をとっていきたい。 【1年次】今後生徒の主体性を促し学習への努力が一貫に位置づけられるようまで進めたい。具体的にはホームズやチームス等の活用で家庭での取り組みを促していきながら、進路希望とリンクした本格的な独習のあり方も提示したい。
	6	学習意欲が高まっている。	3.5 B	3.6 B	3.5 B	3.5 B	3.5 B	3.5 B	3.5 B	B	3.5 B	B	3.4 C	教務 各年次	【1年次】生徒に寄り添う細やかな学習指導とともに年次が独自に取り組んだ朝活のワークや試験前の勉強会など地道な活動が成果になってあらわれていることは喜ばしい。その反面年度初期の意欲がいささか減退している状況にあり課題も多い。中学時代から学習の主眼を学習塾において取り組んできた生徒が多く、家庭での学習は疎かにしている。	

教科指導	7	講習・補習・個別指導などを積極的に受けている。	3.1	C	2.9	C	2.7	C	2.9	C	3.5	B	3.6	B	3.1	C	教務各年次	<p>【教務部】これらを塾等に求めている生徒も少なくないので、積極的に受けている生徒の割合はそれほど高くないと思われる。</p> <p>【3年次】専門学校の生徒も相当数の生徒がいる。大学受験の生徒は夏期補習や個別に質問に來たりしている。2学期以降206教室を放課後の自習教室にした。</p> <p>【2年次】2年次までは補習・講習の機会がそれほど多くはなかったためこのような結果となっている。</p> <p>【1年次】生徒の基礎力の定着については一定の成果が上がっているものの、そこから生徒の自主性や主体性を涵養することについてはまだ着手できていない。</p>	<p>【教務部】これまでと同様に、生徒のニーズに合わせた設定を行いながら、学校にしかできないもの設定を考えていく。</p> <p>【3年次】年次教務だけではなく学校全体の取り組みが必要。</p> <p>【2年次】3年次では、学期中、長期休業中などあらゆる機会をとらえて補習・講習を増やしていきたい。また、この生徒が学びやすい形での個別指導も考えていきたい。</p> <p>【1年次】確かな学力獲得のための具体的な行動については今後丁寧に説明し生徒の不安や迷いと寄り添いながら一歩踏み出すことに勇気と自信をつけてあげたい。</p>
	8	部活動と家庭学習の両立ができている。	3.7	B	3.5	B	3.5	B	3.6	B	3.4	B	3.1	C	3.5	B	生指各年次	<p>【生徒指導部】両立ができるよう、部活動の活動時間のコントロールや働きかけを行った。</p> <p>【3年次】多くの生徒は両立することができている。しかし、部活動に頑張りすぎる生徒も見受けられる。</p> <p>【2年次】部活のみならず趣味や学校外での習い事と学習の両立ができていることは好ましいことである。</p> <p>【1年次】部活動を学校生活の中心においている生徒も多いが、部活動に時間をとられる生徒ほど、学習に対する危機感が強く精神的にも安定しているのが心配していない。</p>	<p>【生徒指導部】学校を出た後の過ごし方について、教員や保護者等連携し、家庭学習へ向かえるよう働きかけていく。</p> <p>【3年次】普段から両立と考査前の部活動の活動についての検討が必要。</p> <p>【2年次】部活に関しては、任意のものであるので生徒の自主性に任せたい。ただし、学習結果がおもしろくない生徒がそれを部活をしているためであると考えているときには指導が必要である。</p> <p>【1年次】今後難易度の高い進路を選択する生徒には個別にアドバイスをしながら高い意識づけをしていきたい。</p>
進路指導	9	多様な選択科目の中から自分の進路・適性に応じたものが選択できている。	4.2	A	4.2	A	4.1	B	4.2	A	3.7	B	3.6	B	4.0	A	教務	<p>選択科目が数多く設定できている結果である。</p>	<p>生徒の進路選択の幅を広げるための教養的な科目の設置を積極的に行う。</p>
	10	進路に関する適切な情報が提供されている。	4.0	B	4.0	B	4.2	A	4.1	B	4.1	B	3.4	B	4.1	A	進路	<p>年次により情報の中身と量が違ってくる。1年次はキャリア教育の比重が大きく、3年次は具体的なより実践・具体的な情報になる。</p>	<p>今後も、内容と時期を検討しながら適切な情報を発信していきたい。</p>
	11	模擬試験等を継続的に受け、事後の学習に生かしている。	3.4	B	3.5	B	3.2	C	3.4	B	3.8	B	3.4	B	3.5	B	進路各年次	<p>【進路指導部】模試を継続的には受けている。その後の、学習に生かして切れていない面があるとの評価と思われる。</p> <p>【3年次】3年次から全員受験がなくなっている。受験していない生徒の評価が低いが受験している生徒の評価は高く両極端のアンケート結果になっている。</p> <p>【2年次】これから3年次に向け模試の数も増えていくため、現時点でこのような結果が出ていることは3年次での模試活用に対する基礎が構築されていると考える。</p> <p>【1年次】模擬試験は積極的に受験しているがその活用については低調であった。</p>	<p>【進路指導部】個人によって、事後学習の方法や対象が違ってくるので、自覚して取り組めるように指導していきたい。</p> <p>【3年次】この項目は模試を受けていない生徒は記入しないほうがわかりやすい。</p> <p>【2年次】事前指導は丁寧にやってきたが、今後は事後指導にも力を入れていきたい。</p> <p>【1年次】事前に過去の問題に取りこんで習熟し出題範囲を予測したり、結果を振り返りながら不得意分野を見つけ出して克服したりすることをすすめていく。</p>
	12	進路校外学習などを通して、職業観・勤労観が身に付いた。	4.1	B	3.6	B	3.8	B	3.8	B	3.5	B	3.8	B	3.7	B	推進	<p>1年次は7月の進路校外学習で6大学に分かれて訪問をし、大学の雰囲気や味わうとともに2年次以降の時間割作成に向けてよい機会となった。また、職業人インタビューや職業人インタビューを通じて自分と向き合う時間となった。</p>	<p>大学訪問では、一部の大学に希望者が殺到し、理系学部を中心とした大学の希望が少なく集まらなかった。年次や部で相談しながら多くの生徒の希望に対応できるようにしたい。2・3年次の探究学習では進路に関連したテーマを選んだ生徒については、研究を進めるなかで施設訪問やインタビューを行うよう声掛け等していきたい。</p>
	13	「産業社会と人間」「総合学習」「課題研究」など生き方について考える機会が多い。	4.1	B	3.8	B	3.9	B	3.9	B	3.8	B	3.9	B	3.9	B	推進	<p>卒業生のアンケートより、進路決定や進路実現に影響を与えたのが産業社会と人間や課題研究であると答えの人が多かった。特に「職業人インタビュー」をあげる生徒が多く、より主体的な学びの機会を行うことが必要である。</p>	<p>総合三科目のねらいや本質について教師自身も十分に理解し、共通認識を持って授業の指導に当たることが大切である。単元ごとに生徒に身につけるべき力を担当者と確認しながら指導にあたりたい。</p>
生徒の自主性	14	総合学科での学習を通して、課題設定や課題解決の能力が伸長した。(H29「総合学習」や「課題研究」を通して、課題設定や課題解決の能力が伸長した。)	3.9	B	3.6	B	3.9	B	3.8	B	3.9	B	3.6	B	3.8	B	推進	<p>1年次はグループで、2・3年次は個人で課題解決型の学習に取り組んでいる。年次が進むにつれ着実に力がついていると考えるが、2年次でテーマ設定に悩む生徒が多く苦勞している。今年度実施した内容をしっかりと振り返り、改善できるよう教材の更新に努めたい。</p>	<p>今年度から2年次「総合的な探究の時間」の単位数が2単位と変更になった。全体でのガイダンスを増やしたが、「問いを立てる」作業が難しく苦勞する生徒が多かった。中間発表では、業者を通して大学の先生に来ていただき、アドバイスをもらうことができ充実した時間となったため、このような機会を増やし生徒にとって有意義な時間となるよう工夫したい。</p>
	15	生徒会活動やホームルーム活動では主体的に活動している。	3.6	B	3.6	B	3.4	B	3.5	B	3.9	B	3.4	B	3.7	B	生指	<p>生徒会役員や委員会、部活等かわる生徒の意見も聞きながら活動を進めた。</p>	<p>生徒との関わる機会をより多くいき、生徒が自ら考え、活動がより良いものになるよう取り組めるようにしていきたい。</p>
	16	体育大会等の行事に積極的に取り組んでいる。	4.2	A	4.3	A	4.2	A	4.2	A	3.6	B	3.7	B	4.0	A	生指	<p>多くの生徒が行事への取り組みは前向きであった。</p>	<p>関わる全ての人が気持ちよく過ごせる行事を創るため、企画の段階からより良いものを探していきたい。</p>
生活習慣	17	集会などを通して、学校や学年の生徒指導方針がよく説明されている。	4.0	B	3.9	B	3.8	B	3.9	B	4.1	B	3.7	B	4.0	A	生指	<p>年次とも連携し、必要なタイミングで生徒への働きかけを行った。</p>	<p>生徒がより良く生きていくため、いつどんなことを伝えていけばいいのか、教員間でもコミュニケーションを取っていきたい。</p>
	18	挨拶・時間厳守・携帯電話の使い方などの基本的な生活習慣が身に付いている。	4.4	A	4.3	A	4.1	B	4.3	A	3.7	B	3.8	B	4.1	A	生指	<p>基本的な生活習慣づくりのための働きかけは年間通じて行い、多くの生徒が身につけてきているが、特定の生徒について、まだまだ伝えきれない所がある。</p>	<p>チーム学校で教員が協力することや、保護者との連携も大切になるので、関わる大人で生徒に伝え続けたい。</p>
人権	19	保健室・教育相談室など、悩み事を相談できる体制が整っている。または、親身になって相談に乗ってくれる先生がいる。	3.8	B	3.6	B	3.8	B	3.7	B	3.7	B	3.8	B	3.7	B	保健	<p>「授業に参加する」ということを重視しつつも個々の生徒の心身のケアを丁寧に扱うようにした。学校内では教員間の連携を図り、キャンパスカウンセラーを活用しながら、より相談しやすい環境作りを心がけた。</p>	<p>相談しやすい環境作りをソフト面だけでなくハード面でも改善し、子供たちの安心安全をより確保できるように実践していきたい。また、引き続き「授業に参加する」という事を重視した保健室活動で西宮今津高校の子供たちが生き生きと生活できるようにサポートしていきたい。</p>
	20	いじめのない学校づくりが進められている。	4.2	A	4.2	A	4.0	B	4.1	B	3.8	B	3.8	B	4.0	A	生指	<p>定期的にいじめアンケート、いじめ対策委員会を行い、いじめが起こらない、重大化させないよう努めている。</p>	<p>日常の観察や、気になることがあった時にチームで動けるよう、教員間の風通しももっと良くしていきたい。</p>
	21	色々な授業や行事を通じて、命と人権を大切に教育が行われている。	4.3	A	4.2	A	4.1	B	4.2	A	3.9	B	3.6	B	4.1	A	人権	<p>今年度は特に「障がい者と健常者がともに安心して生きられる社会について考える」を年間テーマの中心として、7月には映画「水上のフライト」を鑑賞して障がい者とその周りの社会との関係を、11月には障害をもつ方に講演をしていただき、その生き方や考え、気持ちを考える機会を設定した。3年次では労働問題学習講義のHRを実施した。LHRではグループ学習等で各自の意見を聞きながら、自分の考え、行動に生かせる工夫も取り入れた。</p>	<p>本校では毎年、テーマを設定し、それに即した映画鑑賞と講演会を実施する形式で人権教育を行っている。また、インターネットのトラブル、国内の民族問題、就職の差別等の問題などは高校生で学ぶべき問題であるので、各年次ごとに取り上げている。今日では日常生活の中で様々な人権侵害に関わる問題も起こりうるため、各自が人権感覚を鈍らせることのないようどう生活していくべきかを指導できるような検討を重ねていきたい。</p>